

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330194

研究課題名（和文）小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発

研究課題名（英文）Standard contents of educational program of special education for the students who aspire after teacher in elementary school.

研究代表者

林 安紀子（HAYASHI AKIKO）

東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授

研究者番号：70238096

研究成果の概要（和文）：本研究では、通常の学級の中での特別支援教育が有効に実践されるために、1)全ての学生が履修すべきであると考えられる特別支援教育に関する知識のミニマムエッセンスを抽出し、2)大学の教員養成プログラムにおける講義シラバス、実習プログラムの提案及びDVD教材開発を行い、3)学生のボランティア実践を支援するマニュアルを整備した。

研究成果の概要（英文）： For the effective education in the ordinary school to the children with special educational needs, the contents of the teaching for the students at the teacher training course in the university was examined. The results of this research are as follows. 1) The minimum essences of the knowledge about the special need education was discussed. 2) The lecture syllabus about special needs education and the program of teaching practice for the teacher training course at the university were proposed. 3) The manual for supporting the volunteer practice of the student was produced.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
総計	7,100,000	2,130,000	9,230,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：特別ニーズ教育、教員養成、学生ボランティア

1. 研究開始当初の背景

平成19年4月より改正学校教育法が施行され、特別支援教育が本格的に実施された。通常学級に在籍する障害児への支援も、特別支援教育として通常学校・学級の教師が適切に実践することとなっている。しかし、通常学級の教師は、通常教育の教員免許しか取得していないことが多く、大学等で特に定められた特別支援教育に関する科目を履修する必要なく養成されている。小中学校では、発

達障害や知的障害が疑われる児童・生徒が約1割程度、通常の学級で学んでいるとされ、専門的知識も経験も少ない、若手の教師らは、日々手探りで困惑しながら勤めていることが推測される。加えて、障害児を含めた学級経営、保護者への相談支援、他の教師とのチーム体制による教育支援、医療機関との連携など、特別支援教育のシステムの中で、子どもへの直接の支援以外に、教育相談・カウンセリング、コーディネーションなども通常教

育における教師の力量として求められる時代となっている。

2. 研究の目的

本研究で検討し明らかにすることは、以下の4つである。各々に研究班を組織し、情報交換しながら有機的に統合するようにすすめる。

- (1) 国内・諸外国における教員養成プログラムの検討
- (2) 障害児理解のためのデジタルコンテンツの制作と適用に関する検討
- (3) 学校ボランティア・臨床実習の効果的学修の検討
- (4) コーディネートと相談支援の効果的学修の検討

3. 研究の方法

上記の目的を遂行するために、研究代表者、研究協力者、連携研究者を4班に分けて、研究を行った。国内の連携機関として「国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会」(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~shosekyo/>)に加盟する大学に協力を依頼した(北海道大学、宮城教育大学、上越教育大学、筑波大学、東京学芸大学、愛知教育大学、岐阜大学、京都教育大学、奈良教育大学、京都教育大学、広島大学、福岡教育大学、琉球大学)。

(1) カリキュラム調査班：諸外国におけるレギュラー教育の教員養成や我国の心理関連資格などにみられる特別支援教育に携わる教師や専門家として求められる資質・態度などの学修内容を調査研究し分析・検討した。並びに、特別支援教育スタンダードやそのミニマムエッセンスの必要性やあり方などについて研究した。

(2) デジタル教材班：半期 15 コマ(2 単位)の講義：「(仮称)特別支援教育の基礎」(学部 1～2 年生対象)で使用する各障害(文科省指定の 9 障害)の特性をビジュアルかつ臨場感ある視聴覚デジタル教材の開発とテキストの制作を行った(学部授業などで活用可能な障害者の実写・アニメーション、具体的な支援法、資料などの網羅された基礎基本的な指導教材・テキスト)。

(3) 臨床実習・ボランティア班：通年 30 コマ(2 単位)の実習：「(仮称)特別支援教育と学習支援ボランティア」(学部 1～3 年生対象)で、学生がおこなう学校ボランティアや地域福祉における子どもと接する支援活動、障害児教育センター等を中心とする大学での臨床実習などを、学修内容や効果的な手だてを明確化した上で、大学教員のスーパーバイズのもとに単位化していくことの検討をおこな

った(障害児との基本的な接し方、学習支援・行動支援の手だてなどの学生自身の学びのスタイル)。

(4) 相談連携マニュアル班：保護者との円滑な面談とその上にたつ家庭との連携、医療機関、相談機関、福祉機関などとの連携について学ぶことが教師に望まれているが、そうした講義が必ずしも実践的・効果的におこなわれていないのが大学の現状である。そこで、コーディネートや相談支援などをおこなうための基本的な学修内容とその指導方法について検討し、学生ボランティアや教育実習、あるいは現職教員が活用できる実践的マニュアルを作成した。

4. 研究成果

(1) 国内・諸外国の教員養成プログラムにおける特別支援教育についての調査研究(カリキュラム調査班)：国内外の文献調査を行うとともに、日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究会や、学会の自主シンポジウム等において国内大学関係者と検討会を行った(2011 年度)。例として、日本特殊教育学会第 49 回大会(2011 年 9 月、弘前大学)において研究代表者が企画者となって開催した自主シンポジウムの話題提供内容を図 1 に示す。

日本特殊教育学会第49回大会 自主シンポジウム71 「特別支援教育に関する学修プログラムの現状と課題 —教員養成・現職研修・地域連携等の視点から—」
企画者：林 安紀子 (東京学芸大学教育実践研究支援センター) 司会者：橋本創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)
話題提供者： ①高知大学における取り組み 是永かんな子 (高知大学教育学部)
②琉球大学における学生教育、現職研修、地域貢献の有機動的ネットワークの構築 浦崎 武 (琉球大学教育学部発達支援教育実践センター)
③特別支援教育に携わる教員への研修体制およびその内容(全国調査) 川合紀宗 (広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター)
④教職科目における障害に関する科目と特別支援教諭免許状に関する科目の質的向上に向けて 河合 康 (上越教育大学大学院学校教育研究科)
⑤通常の学級の教員を志望する学生における特別支援教育の意識とその変化 林安紀子 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)

図 1 日本特殊教育学会第 49 回における自主シンポジウムの内容

(2) 障害児理解のためのデジタルコンテンツの制作と適用に関する検討(デジタル教材班)：学生の障害理解に役立つデジタル教材として、障害種別の特徴を各障害につき 10 分程度で紹介する DVD 教材を作成した。教育実践現場での各種の障害児の実態をビデオ録画した素材から重要な場面を切り出して編集し、「特別支援学校・学級の活動風景」というタイトルの DVD 教材を作成した。ただし、この教材の公開・使用については慎重をきすために、大学生対象の限定された授業内のみの使用にとどめた(2011 年度)。また、Web 上で広く配信する発達障害児向けの学

習支援ソフトを開発した(2008~2010年度)。

(3)学校ボランティア・臨床実習の効果的学修の検討(臨床実習・ボランティア班):全国の教員養成系大学で行われている学校ボランティアや臨床実習の取り組みや大学における学生支援プログラムを調査し、そのエッセンスを抽出し、学生向けのミニハンドブックを作成・印刷した(2009年度)。図2~図4に調査結果の一部を示す。

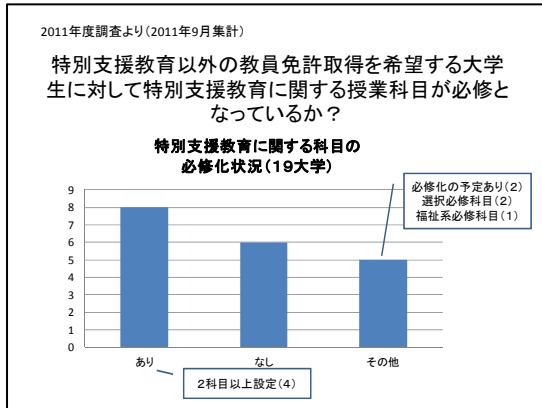


図2 教員養成系大学の調査結果の例

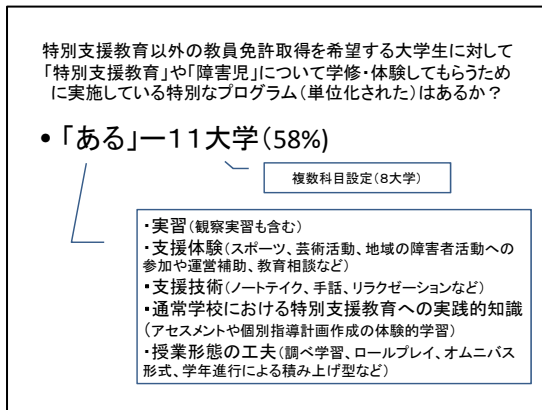


図3 教員養成系大学の調査結果の例

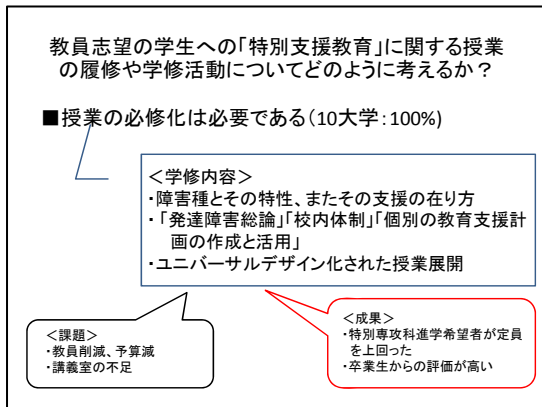


図4 教員養成系大学の調査結果の例

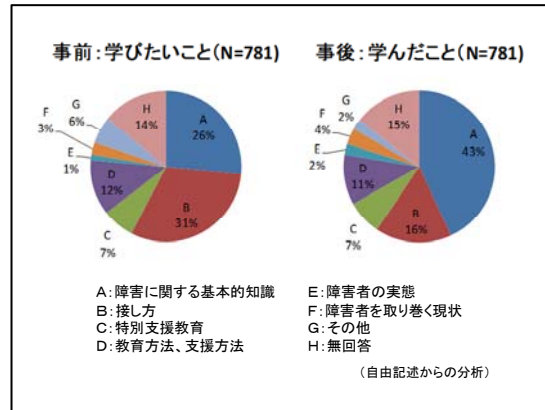


図5 教員志望の学部生への調査結果の例

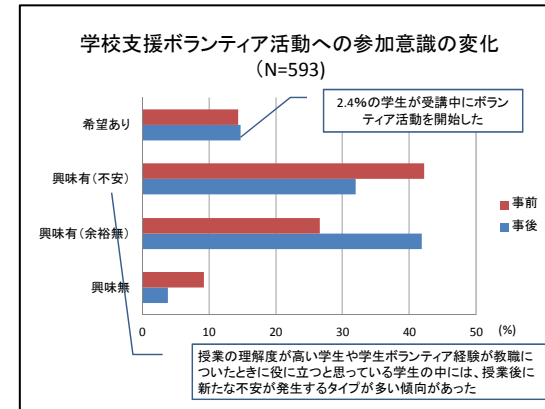


図6 教員志望の学部生への調査結果の例

(4)コーディネートと相談支援の効果的学修の検討(相談連携マニュアル班):教員が保護者、医療機関、相談機関、福祉機関などとの連携について学ぶために重要な項目について調査し、教員やスクールカウンセラー向けの保護者面接マニュアルを作成・印刷した(2010年度)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

①平田 悠紀乃、林 安紀子、橋本 創一、特別支援教育における通常学級「支援員」の役割と課題に関する研究、東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要、査読無、第8集、2012、P.97-103.

②田口 禎子、林 安紀子、橋本 創一、池田 一成、大伴 潔、菅野 敦、小林 巖、三浦 拓也、戸村 翔子、村松 綾子、通常教育教員養成における特別支援教育プログラム構築のための基礎的な検討—教師志望大学生の障害者理解と障害理解教育に関する調査—、東京学芸大学紀要、総合教育科学系II、査読無、第63集、2012、P.303-319.

③三浦 巧也、橋本 創一、林 安紀子、池田 一成、伊藤 良子、大伴 潔、菅野 敦、小林 巖、特別なサポートを必要とする児童・生徒に対する学校支援ボランティアに関する調査研究－教員養成系大学の学生が授業や体験等を通して得た気づきの分析－、東京学芸大学紀要、総合教育科学系Ⅱ、査読無、第62集、2011、P.279-285

④三浦 巧也、林 安紀子、橋本 創一、私学中高一貫校における教育相談と特別な教育的ニーズに関する研究、東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要、査読無、第5集、2009、P.127-132

〔学会発表〕(計2件)

①林 安紀子(企画)、自主シンポジウム71：特別支援教育に関する学修プログラムの現状と課題－教員養成・現職研修・地域連携等の視点から－、日本特殊教育学会第49回大会、2011年9月25日、弘前大学(青森県)

②爲川 雄二、橋本 創一、林 安紀子、菅野 敦、Web サイトによる発達障害児者支援－アクセス記録からのニーズ解析－、日本発達障害学会第45回研究大会、2010年9月4日、東海大学(神奈川県)

〔図書〕(計2件)

①林 安紀子、橋本 創一、伊藤 良子、田口 禎子、戸村 翔子、三浦 巧也、村松 綾子 監修、教師・スクールカウンセラーのための保護者面接マニュアル Q&A、東京学芸大学教育実践研究支援センター 発行、2011

②林 安紀子、橋本 創一、田口 禎子、畑中 愛 監修、学校支援ボランティアマニュアル、東京学芸大学教育実践研究支援センター 発行、2010

〔その他〕

①－授業・研修用DVD教材－特別支援学校・学級の活動風景、2011 (現在は、配布先・使用目的についての制限あり。今後の公開については検討中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 安紀子 (HAYASHI AKIKO)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：70238096

(2) 研究分担者

是永 かな子 (KORENAGA KANAKO)
高知大学・教育研究部・准教授

研究者番号：90380302

(3) 連携研究者

伊藤 良子 (ITO RYOKO)
東京学芸大学・教職大学院・教授
研究者番号：00143628

菅野 敦 (KANNO ATSUSHI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：10211187

大伴 潔 (OTOMO KIYOSHI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：30213789

橋本 創一 (HASHIMOTO SOICHI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・教授
研究者番号：10292997

池田 一成 (IKEDA KAZUNARI)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・准教授
研究者番号：50293006

小林 巖 (KOBAYASHI IWAO)
東京学芸大学・教育実践研究支援センター・准教授
研究者番号：90305300